

学校再編地域協議会富士小学校区部会（第2回）会議録

日 時	令和5年6月11日（日） 18時00分～19時40分
開催場所	フラワータウン市民センター 2階視聴覚室
出席委員	石東委員、柴崎委員、戸田委員、梶井委員、寺田委員、小林委員、 篠原委員、塚本委員、田中委員、岡田委員 (委員2名欠席)
事務局 出席者	(学校教育部参事) 外岡 明文 (学校再編課長) 上野 樹 (主幹) 石塚 誠 (指導主事) 岡崎 正文
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回地域協議会部会まとめ ・ 説明会等での主な意見等に対する教育委員会の考え方について (まとめ) ・ 各説明会での意見等の概要と事務局回答及び終了後の意見感想用紙 記載分に対する教育委員会の考え方について ・ 富士中校区児童生徒数の推移（推計）(R5.5.1現在) ・ 質疑応答 3. 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の重点課題について 4. その他 5. 閉 会
傍聴者の人数	6名

会議の概要

事務局	<p>1. 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議公開の確認 傍聴者の人数報告（6名） ・出席委員の確認（委員10名出席 2名欠席） <p>～外岡学校教育部参事 開会挨拶～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料の確認 ・令和5年度 新委員の紹介
事務局	<p>2. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回地域協議会部会まとめ【資料2】 ・説明会等での主な意見等に対する教育委員会の考え方について (まとめ)【資料3-1】 ・各説明会での意見等の概要と事務局回答及び終了後の意見感想用紙記載分に対する教育委員会の考え方について 【別冊資料3-2】 ・富士中校区児童生徒数の推移（推計）(R5.5.1現在)【資料4】 —事務局より資料に基づき説明— ・質疑応答
事務局	<p>協議事項については、「今後の重点課題」を挙げており、両校の再編を検討していく上で、重点的に協議、検討していくべき事項、あるいは協議の順番などについて協議していただきたいと考えている。前回の部会、説明会での意見などについて項目ごとに資料に整理しているので、その区分で重点課題を整理してはどうかと考えているがどうか。</p>
委員	<p>3. 協議事項</p> <p>重点課題ではないが、これまでの資料を見ていて、これから小学校に入ってくる人たちが一番再編の影響を受けると思う。その人たちの意見をどのようにすい上げているのか。説明会での質問の中でも、「今幼稚園に通っている、あるいは通っていない、そういった世代の意見をどのようにすい上げるのか」と質問があり、「そういう機会を設けたい」という回答をしていたと思うが、そういう意見をこの会議に生かしているのかという思いがある。そういう方たちをお呼びしたりするのはなかなかできにくいですが、やはり、再編に該当してくる人たちの意見が最重要だと思うので、そういった人たちの意見をしっかりと取り入れることができればと思う。</p>
事務局	<p>小学校の保護者については学校を通じて説明会の案内をさせていただいた。住民説明会では、自治会回覧をお世話になり、周知をしたところであるが、自治会に入っていない方もおられることや、市のホームページには載せ</p>

	<p>ているが、広報紙に載せるタイミングが難しく載せられなかったということもあったため、5月13日の住民説明会については、市の広報紙やホームページに載せるほか、それにプラスして、フラワータウン内の就学前施設にお願いし、保護者への案内文の配布を行い、周知を図った。その時の説明会での意見については、すべてが就学前児童の保護者の意見ではないが、意見集約に努めてきたところである。就学前児童の保護者への周知については、今後も説明会等をするようであれば、こういった方法も含めて、周知の方法について考えていきたい。</p>
委員	<p>今日、初めて参加された委員もおられるので、今後の重点課題といってもわかりにくい。過去に出ていた重点課題などを挙げてもらった方が、質疑応答などもしやすいのではないかと。また重点課題といっても、富士小と弥生小が統合していくことの是非であるから、再編の是非の課題なのか、統合するための課題か、その辺のところをもう少し説明してもらえれば意見も出るのではないかと。</p>
事務局	<p>弥生部会の方からは、統合の場所を問わずに、まずは再編の必要性というところから議論をしたいという意見が出ている。事務局としても、まずは再編の必要性についての協議が1番先になると考えている。再編が必要ということになれば、その次に、どちらで再編するかという話になるわけであるが、教育委員会の考え方については、一旦、示しているもので、その協議ということになる。そして、話がまとまれば、その次に、例えば、通学の安全について、たくさんの意見をいただいているので、通学路を具体的にどうしていくのかといった協議や、あるいは、再編に伴う心のケアというところで、非常に不安に思っている子どもたちが、学校に来た時にどうしていくのかという対応等についての協議が重要になってくると考えている。</p> <p>それから説明会での意見等をこちらの区分で、1から6としてまとめさせていただいた。1番の教育環境というところでは、今の学校の状況をどう考えるのかというところで意見をいただいている。委員の方からは、説明会が一通り終わって改めての意見であったり、新しい学校の場所についての考え方といったところでのご意見をいただきたいと考えている。</p>
委員	<p>委員の皆さんに、多少時間差があると思う。僕らは、1年前から、こういう協議をさせてもらって、意見を言ってきた。皆さんも自由に発言してもらえたらいいと思う。</p>
委員	<p>個人として、率直に感じたところであるが、課題はすごく山積みであると思う。弥生小の跡地の活用方法であったり、通学路の問題であったり、先ほどあったいじめの問題であったりとか、いろんな問題があるが、まず、第一に決めるのは、再編をするのかしないのかということ、これをいつ決定す</p>

	<p>るのか。こういう会議や説明会を経て、最後は総合教育会議で決定していくというのはわかっているが、そのゴールがあいまいな部分があり、今後の道のりがもう少し見えた方が、話をしていきやすいと思う。1番最初に、再編をするのかしないのかというところの決定を急いで、最重要課題にするべきではないかと思っている。</p>
事務局	<p>委員の任期については、2年としている。この2月から始まったので、そこから2年間の間に、地域協議会としての意見を取りまとめてほしいと考えている。それが早いか遅いかは別として、例えばこの秋にまとめれば、資料の中にも書いているようなスケジュールになると思うし、それが2年間かかり結論が出されたということになれば、そこから少なくとも1年度間かけて開校の準備をする。総合教育会議については、皆さまの取りまとめた意見を持って、期間を空けずに開催することは可能と考えているので、皆さまのご意見の取りまとめができて、総合教育会議を開いて、そこから準備にかかるといったスケジュールになる。</p>
委員	<p>総合教育会議は、この会議での意見がまとまった後で開催されるということだが、統合の是非をこの会議でいつ決めるのか。統合が「是」という判断がないと、②、③、④、⑤は協議できない。「非」になればもう協議しないでいいわけであるから、多分メニューは変わって、小規模の小学校としてどう運営していくかという課題に変わっていくと思う。要は、開校時期やスケジュールとかは「是」としないと、ここでは協議できないと思うが、その辺のスケジュールはどうなのか。</p> <p>それと、重要課題の中で、まちづくりの跡地利用というのがあるが、それはこの会議でできるのか。単なる要望を出すという内容でいいのか。決定事項にはできないと思うが、その辺はどうなのか。</p>
事務局	<p>地域協議会として、「是」という方向性がまとまった後に、総合教育会議を開くことになる。「非」となれば委員が言われた通り、再編の協議をする必要がなくなるので、この会は解散になる。この協議会の中でのスケジュールは、「是」か「非」かは別にして、2年間の任期を原則にしているので、その中でご検討いただくことになる。ただ2年間、必ず時間をかけなければならないのかというと、そうではない。子どもたちの小規模化の課題について、今もずっと日常の教育活動の中で、できるだけ出さないように工夫しているが、出てくるのが考えられるし、実際にできない教育活動もある。子どもの数が減れば、課題がますます増えてくるという状況もあるので、できるだけ早く、子どもたちの教育環境を良くするために取り組むことが必要であると思っている。跡地活用の関係だが、担当部署でいうとまちの再生部が、このフラワータウンのまちの再生と合わせて、跡地活用にも関わっていくことになると思うので、教育委員会で決められるものではないと思っている。</p>

	<p>それについてはしっかりと担当部署と情報を共有しながら、まちの再生部と協議しながら、皆さん方にお伝えする時期も設定していきたいと考えている。全般的にスケジュールのことが、皆さんの関心が高いというのが非常によくわかる。ただ、実際に「是」となり、子どもたちが、「新しい学校はいつできるのだろう」と想像した時に、心の準備、学校側の体制の準備が必要になってくるので、少なくとも4月の新学期、新学年が始まる、入学式が始まる時から3月末までは、一旦間をあけて、その準備をしていきたい。その準備の中の1つには、閉校式もあるし、新しい学校の開校式の準備も必要になってくる。様々な行事や教育活動も調整しながら、子どもたちを新しい年度に、新しい学校で迎える準備をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>再編が「是」か「非」かというのは、この任期2年以内を最長として、それ以内でも可ということによいか。ということは、2年までには必ず「是」か「非」か決断を出すという認識で間違いないか。</p>
事務局	<p>言われる通りである。</p>
委員	<p>今、閉校式や開校式など、合併が決まってからいろいろな行事があることを聞いているが、最初に教育環境のところで子どもたちの交流の機会を持ってほしい。互いの学校を見学するなどもあったが、子どもたちがいかに交流して、お互いに、今後一緒に歩む人たちと仲良くなれるかが大切である。そういった経験をする時間はどれくらいあるのか。</p>
事務局	<p>先ほど、「準備の期間に1年度間は」とお伝えした。その1年度間に、行事の交流であったり、授業を一緒に受ける機会を作ることや、給食を一緒に食べる機会を作ることでもあると思うし、行事でも、例えば自然学校であったり、音楽会なども一緒にできるようなことがあれば、一緒にやることで、新年度、新しい学校での準備になるかと思っている。</p>
委員	<p>私もこの会議を迎えるにあたって、いつも色々考える。それだけ自分なりには真剣に考えているわけだが、まず前提として、子どもの人数が減っていくということがある。このデータの的にも現状から見ると、やはり大事なのは子どもである。私は地域の間人として参加しているが、ある意味では地域の親として、1番身近な保護者、学校とともに、我々地域としても、子どもを見守っているわけである。だから真剣に悩んでいる。これからの世の中、3年後は予測できても、5年後以上は、世の中全般がなかなか予測できない状況になっている。その時に、自分の子どもが、より強く、優しく、将来の成長に向けて立派な人間になってほしいと願うのは、皆さんと一緒にである。そういう中でこの再編の問題が出てきた。学校はやはりある程度の一定の規模を持ちながら、子どもが、競争と言うか、切磋琢磨しながら、将来に向けて</p>

取り組む一つのスタートである。だから環境整備においては、このフラワータウンの再生等があるが、子どもの数が減っていくわけだから、そういう中で、AとBが一緒になって、いわゆる統合をするのがいいと思っている。

この将来推計を見ると、令和15年にはもっと減ってくる状況であるが、その第1段階として、子どもを中心に考えて、どうあるべきかを考えなければならない。やはり大事なのは、これからのどういう変化にでも対応していく力のついている子ども、競争という言葉はあまりよくないのかも知れないが、それに負けない子どもになってほしい。子どもの登下校とか、学校教育の中での子どもさんの授業とか、そういうことを通して見たら、ある程度の一定の規模を持つ学校になるべきだと考えている。だから是非を問うとすると、私は賛成である。今日はやむを得ない理由で欠席された委員もいて、公開だから代弁するわけにいかないが、その方と意見のやり取りをする中で、「やはり地域の宝は子どもだから、大事だね」と私の言うような云々を言われた。私は、この協議会のメンバーとして、私個人として、学校、保護者、地域を勘案すると、統合に賛成の立場である。

ある程度、皆さんの合意ができれば、あまり時間をかけないでやるのがいいと思う。統合について両校とも円満な合意になれば、それから先が私たちの仕事であり、いろいろな準備がある。学校の名前から登下校の安全とかカリキュラムとか。その間に、今言われたような、子どもの心のケアから、安心、安全面など。新しい学校を作るわけであるから、そこへ子どもたちがスムーズに入れるように、地域としてもバックアップしていきたいと考えている。私の気持ちとしては、現状を見て、将来を見て、子どものことを考えると、統合していただきたいというのが私の意見である。

委員

自治会としては、現状をお伝えすると、その「是」か「非」かという話については、個人的な話で住民の意見を伺ったりすることはあるが、自治会として、まだそこまではっきりとした話はしていない。したがって、この場で皆さんが言われたような、はっきりとした意見というのは、今は持ち合わせていない。ただ、最終的にそういう答えを出すにあたっては、富士が丘の自治会は、ご承知の通り、1～6丁目の各自治会となっているので、各自治会の方に話をおろして、またそれをすい上げるという行程が必要であるので、ある程度の時期をお示しいただいた方が、進めやすいと思っている。

事務局

様々のご意見、ご意向をいただきありがたい。まず再編の必要性というところで、説明会でもいろいろな質問やご意見をいただいている。その時にも、話をしたが、今の子どもたちが楽しそうに学校に行っているという話も聞いたりする。「小さいなりに、小さいままでも」という話も聞いたことがある。ただ、我々が今想定しているのは、これから先の時代は、非常に見通しが立ちにくい時代が来ると言われている。これまでであれば、高度経済成長期に代表されるように、正解が分かっている、それに向けて大量に生産をして、

大量に消費する。その中には答えが見えやすかった。ただ、これからは、世界情勢を見ても、日本の人口動態を見ても、先行きが読みにくい時代がくる。情報が非常に溢れている、Society5.0 に代表されるように、瞬時に世界に繋がる、世界の情報が瞬時に入ってくるという中で、何が正解なのかは、非常に分かりにくい。だから情報を集めて、自分自身で、その情報から答えを自分なりに作る。それを、他者と意見を交わす中で、より良い答えに導き出していこうとすることが必要になってくる。それを、まず、学校で経験しておく必要があるのではないかと考えている。それを実現しようとした時に、少人数のままでどうなのかと思う。例えば、極端な話、少人数だけで言うと、塾などで、マンツーマンで知識を詰め込んだらそれでいいじゃないかという方もいるかと思う。そうではなく、自分の意見を持ちながら、人の意見を聞いて、より良い答えはこれだという形で答えを見つけ出していく。そういう経験が、これから社会に出ていくにあたって必要になるのではないかとこのところで、今回この再編を、提案させていただいている。

小さなグループが、例えば1学年1クラスの中で4つのグループがあるとすると、1クラスでなくて2クラスあった方が、いろんな意見がたくさん出て、そこから自分自身が刺激を受けて成長に繋がっていく。そういうことができるかと考えている。そういう環境を作るために、再編という形で提案をさせていただいた。それと、自治会としてのお話もお聞きした。今回、教育委員会が、提案をさせていただき、このような協議の場を持っていただいている。

最終の答えを出す段階で、各自治会の方におろされる予定があるということか。

委員

それは、まだこれからである。まだちょっと、どうしたらいいかわかっていないのだが、私は自治会の代表なので、一個人で物が言える立場ではないと思っている。

事務局

その辺りは、今回、富士と弥生の再編地域協議会という形でやっているの、ある程度、時期というのは調整する必要があると思っている。富士だけが先行で動くというのもなかなか難しい。あとあとその温度差というのができ上がってもいけないので、そういう意味では、少し調整をしながら、どのようなやり方で意見をまとめるのかといったところを、全体会になるのか、今の部会でそれぞれの取りまとめをするのかについて、調整させていただきたい。

委員

前回2月に、初めて具体的な案を見せていただいた時には、唐突感と言うか、そういう感じを受けて、どうしたものかと思った。しかしその後、6回も保護者の方や地域に説明会を開催していただき、その中で出たたくさんの意見の載った資料を見せていただき、唐突感や不安というのは、なくなったよう

に思う。皆さんとても大事なことなので、よくお考えいただいているということや、統合に関して、不安に思われていることがいろいろあるということなど、いろんなことがわかった。それが地域や保護者の方の、率直なご意見だと思った。しかし、そういう意見はたくさんあるが、基本的には、先ほど事務局から児童数の報告があったように、統合して、ある程度の規模の集団、学校を作るということは、喫緊の課題であると思う。今後、児童数が増えていく見込みがあるのであれば、しばらく耐えたらいいと思うが、予想ではそうはいかないので、これは早くに対応しなければいけないと思っている。

やはり適正な規模というのがあるので、その中で、子どもたちを育てることの大切さというのは、本当にその通りだと思う。それについては、いろんなご意見があるとは思いますが、「学校のあり方に関する基本方針」を、平成30年に作られているが、専門家や地域の方、いろんな方が一定の方向として「三田市の学校のあり方」というのを作っているわけだから、ここで、さらに、その是非について考える必要はないと思う。この方針に基づいて、この富士・弥生としてどうしていくのかということ、この2年間で、できるだけスピーディーに、考えていけると嬉しい。是非について、まず決めなければ次に進めないというところがあるとすれば、2年間、この是非をどうするかなど話をしても何にもならない。是と判断したからと言って後戻りはできないというようにすると、それは問題かもしれないが、まずはその是非は早くに判断をして、そして、その具体的なところを十分時間をかけて、1回でも多く話をして、先ほど言った地域の皆さんの不安や問題点を1つでも潰していくような、そんな2年間にしていって、実際の統合ということに、進んでいければいいと思う。是非については、すぐにでも決めたいというように私は思って、今座っている。

事務局

子どもの教育環境を考えた時に、時間をかけすぎると、その分だけ子どもたちの教育環境を、より良くしたいというところが遅れてしまうので、それは避けたいという思いは持っている。ただ、これも富士校区、弥生校区の両方が整って、初めてできることになるので、その辺りを調整しながら遅れることのないように、していきたいと思っている。言われる通り、まずは再編の必要性といったところについての一定の方向性を出していただくというのが大事だと思う。その後、それに伴って出てくる課題を協議するというのが、いいのではないかと想定している。その辺り、他の委員の皆さん方からもご意見いただければと思う。

委員

私個人として思っていることを少しお話したい。この富士小学校だが、先日、学校沿革史を開いてみると、平成2年の開校時からピークが平成7年で児童数が600人弱であった。2学年が4クラスで、他が3クラス合計20クラスほどであったようである。この学校へ来て3年目だが、赴任した時に、児童数、クラス数が少ないことにびっくりした。教師になったのは三田で採

用されてから、ずっとここでやっているの、三田市が人口増加率全国トップを走ってきた頃の富士小が、ガンガン増えて3クラス、4クラスを、大体3クラス規模を維持してきたことを知っていた。それが今回「こんなに少なかったかな」というイメージを持った。弥生小にも1年間いたが、弥生小に行った時は、もっとびっくりした。弥生小が単学級になっていることに衝撃的だった。同じく弥生小はこのフラワーの中でも本当に結構な規模を維持していた学校だったので、それがぐっと減っていたことにびっくりした。この春、富士小学校は児童数が300人を切った。昨年度から50人減った。1年生が単学級になった。これは多分初めてではないかと思う。

私は、自分が子どもの頃、単学級だった。何十年も昔のことだから時代が違うが、小ささにも良いところはあるが、今この社会において単学級というのは、子どもも親も教師もしんどいという気がしている。学校のあり方検討委員会の中で基本的な方向性が出ている通り、ある程度の規模、学年2～3クラスは必要である。あまり大きい学校もしんどいところがある。大きいマンモス校は、子どもの顔と名前一致しないから教師側もしんどいし、子ども同士も人間関係が、あの子あまり知らないということもある。実際にそういうところがあるので、しんどさはあるが、適度な規模は維持したいと思う。子どもも同じように思っていると思うし、保護者にとってもそうだろうと思う。単学級で6年間いると、クラス替えのないしんどさというのが、かなりあると思う。これは子どもも保護者も同じである。保護者も価値観が多様化しているので、ずれた時にはこの6年間がかなりしんどい6年間になってしまう。そういう意味では、複数の学級が欲しい。

この再編とは別に、学校ではより良い教育活動を実施するために、同じ中学校区である弥生小と、教育活動で一緒にできることはないかと、今模索しているところである。弥生小にも「近くなので一緒にできないか」という話を実際に進めている。先ほど委員が言われた、子どもたちがスムーズに一緒になっていける、1つの過程になるのなら、それはよいことだと思うので、進めていきたいと思っている。子どもたちの成長のため、人格形成にプラスになるために、やっているところである。

再編の是非というところは、この2年間のうち、できるだけ早いうちには結論を出して、是とするならばそれに向けて、学校としても弥生小の先生たち、子どもたちと一緒にやっていく、また保護者同士も繋がって進めていければと願っている。

事務局

校長先生から、子どもの状況について、それから、今取り組んでいる状況についての説明であった。他の方はご意見どうか。

委員

全国的に小規模、大規模の学校があつて、統廃合が進められている地域もあると思うが、以前、統廃合して良かった点や悪かった点などの事例を示してほしいと言っていたが、その辺の事例はあるか。

事務局	<p>学校再編について他のところのたくさんの事例がある。以前お聞きした時には、この協議会の進め方、どのようにすれば早く前に進むのか他市の事例等はないのかとお聞きした。また統合した後の学校で、子どもたちに「今の学校生活についてどのように感じるか」というアンケートを取られたケースもある。そういった事例については、資料等を提供することは可能である。</p> <p>協議会の進め方としては、三田市と同じように進めているところが多いようである。ただ、会長や部会長などを地域等の中から立てていただき、事務局は、説明をする立場としているところが多いように思う。また地域やPTAから要望書が上がって、それに基づいて協議会を設置している市町もある。この学校とこの学校というところだけ示して、教育委員会の考えを示さず、地域、保護者の協議の中で、統合場所も含めて任せているという市町もある。今回については、教育委員会の考え方ということで、先にお示ししたが、弥生校区部会で1から検討したいというご意見をいただいている。そういったところで、市によって様々なやり方があると思うが、今、三田の場合はこういった状況である。</p>
委員	<p>まちづくりの活性化のことで、子育て世代に興味を持って、居住する地域として選んでもらうための施策が必要である。少子化になるのは、もう数年前から、もう何十年前からわかっていた。そのための施策として、もっと三田を住みよい町にして、若い世代がここに住んでよかったなという転入促進の施策を市として重点的に進めていると思う。少子化だから、統廃合をしなければいけないではなく、もっと先に考えなければならないことがある。若い世代が、三田市に住んでくれるような転入促進の施策で、もっと子どもが増えるような施策を市の方で進めてもらいたいと思っている。</p>
事務局	<p>今、フラワーの再生の取り組みしていることを、皆さんお聞きになっていると思う。フラワータウンの再生ビジョンに基づいて、移住定住ということも、重点的に取り組む事項として取り組みを始めたところである。まだ始めたばかりであるため、実際の転入者が、どのような動きがあるのかは、結果として現れていないが、フラワータウンは、非常に人気の高いところで、空き家が出て、売りに出れば、早く買い手がつくという状況が見られることも聞く。実際に、昨年度と比べて、転入者が増えている住区も、出てきているので、そういったところから、今の取り組みが進めば、空き家が市場に出て、そこに新しく若い世代が転入するという循環が期待できると思っている。ただ、ニュータウンができた時の、まち開きの時のように、1年間で何百戸売れたという状況は、なかなか難しいと思う。でも、今住んでおられる方が家を手放すことが先ないと、そこに転入してくることはない。したがって、一時にどんと増えるのではなく、じわじわと入れ替えが進んでいくというようなイメージを持っている。弥生小と富士小を残して、各校2クラスを維持できるような状況になるのかというと、それはちょっと難しいと思ってい</p>

	<p>る。ただ、今回再編をして、今であれば2クラスが維持できる。そこに、移住定住で、住み替えがそこに乗っかってくるというようなところで、2クラスをずっと維持できる。非常に教育環境としてはやりやすい、子どもたちにとっても魅力のある教育活動ができる、そういうような循環を作っていきたいというのが我々の思いである。まちの再生部の方にも今日出たようなご意見をしっかりと伝える中で、フラワーの再生の取り組み、住み替えも含めた取り組みというのを、今後、展開できるようにしていきたいと考えており、ご理解いただきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>富士としては、ある程度のスピードで、「おおむね了解した」となり、それに向けて、色々と課題を解決していくことになると思う。</p> <p>なかなか再編ということにはすぐえないということもありうる。1度だけ、最初に両校区で会議した。その時、色々な意見があった。今は二つに分かれて会議をしており、お互いに情報交換もしていない。両校区でまとまらない場合もありうるかもしれない。そのことを想定しているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>全体会については、一定、区切りごとに開く必要があると考えている。1つの部会での意見がまとまった、もう1つの部会での意見もまとまったということになれば、お互いの部会で、こういうような意見が出ていますという形で、全体会を持ちたいと思っている。当然、資料も会議録も両校区の分を、皆さまにお配りするので、そのあたりの状況についてはお分かりいただけると思うが、ある一定のタイミングで全体会については、させていただきたいと思っている。ただ、それが、いつになるかということについては、両校区での部会での協議の状況なり、まとめの状況によるということになるので、そういったところのスピードやバランスについても合わせていく必要があると思う。資料提供にしても、もう一方の部会にも、その資料を示しながら、こういう意見があったということで、協議を進めていくことを考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>全体会では、ある程度、地域は違うけど一体感が出るような会議でないといけない。将来に向かって一緒にやってみようという会議でない、なかなか温度差があったらうまくいかないと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>こうやって部会に分かれているというのは、それぞれの学校区で課題も違うし、全体会をやって、お互いが学校の引っ張り合いというようになって、なかなか結論が出ないだろうという委員のご意見があったのでこのようにさせていただいている。部会に分かれて協議いただく中で、地域、保護者の意見をまとめていくというところをお願いしたい。それぞれの部会としての一定の方向性がまとまるというタイミングが合った時点で、全体会を持たせていただくことを想定している。</p>

<p>委員</p>	<p>先ほどの弥生との話のことであるが、本当に一緒に進めていくということがすごく大事だと思う。ちょっと話はずれるかもしれないが、今の富士小学校だが、ニュータウン地区と、池尻と上深田で構成されている。これは、当たり前前なこととして、開校の時から、ずっと来ているので、ごくごく当たり前前なことになっているが、それによる子どもたちの学びというのは価値があると思う。どういうことかと言うと、ニュータウンに住んでいる子は、農村地域に住んでいる子と環境が違う。そういう環境の子が、1つの学校にこう集まって、毎日暮らしているということは、言葉にするしない、授業でするかしないかは別として、一緒に過ごすということが、すごくお互いに学び合いがあると思う。さらに富士小では、例えば、3年生がうちのお寺に来て勉強することが、コロナ前は習慣になっていた。習慣というか、毎年来ていた。その時に、実際に来るとニュータウンの子は、こんなところが校区にあったと気づく子もあるし、そういう歴史などに少し触れて、子どもなりに、いろんなことを感じて帰ってくれたと思う。</p> <p>そういうことを、思うとニュータウンには、ニュータウンの良さがいっぱいある。古い地域にも、実はいっぱいいろいろな良さがある。人であったり、物であったり、環境であったり自然であったりとか、いろいろなものだが、そういう良さがあると思う。そう考えた時にすでに弥生小学校と富士小学校があるから、2つをくっつけるのに、こう問題が起こるわけだが、大きな視点で見ると、弥生と富士とが一緒になることによって、より教育環境、素材は豊かになる。人も自然も、あらゆるものが増えるわけだから。それをお互いの子どもたちが日々の生活の中で共有できる。もっと言えば、それに引っ張られて大人も地域も、これまで交流がなかったところの交流が生まれて、より活性化するのではないかなと思う。だから、この地域の方の意見の中の不安なことや心配なことの中で、学校がなくなったらその地域の価値が下がる、寂しくなるみたいなことがあったと思う。それはどちらの学校であってもそうであるというようなことがあったと思う。しかし、そういう面も、もちろん、ないことはないかもしれないが、それを逆手にとって、先ほど言ったような、地域の価値を上げるような、前向きな取り組みとして進めていけばいいのではないかなと思う。そうしないとまちの良さは、高まっていかないと。だから、ぜひそういうところで進めていきたいと思う。</p> <p>その時に、富士小学校を使うということがあるので、弥生が閉校になって、富士小学校に統合するような誤解を生んでしまうが、そこは絶対そうではないということもみんなでも共有しないといけないと思う。そうではなくて、どちらの学校も閉校し、どちらも同じようにもう「無し」にするということをやらずしっかりと、みんなでも、学校も地域も保護者もそこはしっかりと押さえないと、あとあとしんどいと思う。その上で、今の弥生が丘と富士が丘と池尻と上深田を校区とする新しい学校を作ることによって進めば、明るい展望が持てると思う。それをこの2年間で話していきたいと思う。</p>
-----------	--

事務局	<p>我々も新しい学校を作るということを、しっかりとお伝えできるように、努めていきたい。</p>
委員	<p>PTAとして、1つある。僕個人だが、PTA役員が1年間で終わってしまう。一応、2年間、この会議が持たれるということであるが。個人的には、賛成で、友だちが増えるということで、子どもたちも楽しみにしている。PTA役員は4月で終わる。引き継ぎもあるが、この1年間で、まだ決まらないうと、そういう引き継ぎになってしまうのかと思う。できれば、個人的には、この1年間で決めていただきたいという気持ちはすごくある。そうすると、引き継ぎを行い、次にPTA役員をやっていただく方には、わかりやすいと思う。</p>
事務局	<p>言われたことをしっかりと持ち帰る。また、弥生の校区の会での議論もあるので、そういった中で時期的なことについては、我々が考えるところは、できるだけ子どもたちの教育環境を早く作ろうとすれば、早く再編についての意見をまとめることが、1番の道ではないかと思う。</p> <p>先ほど協議の進め方でもあったように、まずは再編の必要性について、それぞれの部会で今、話し合いを始めたところで、それで一定、そこについての協議を進めていただく。次に、どちらの学校でというところについて、弥生の方から、今ご意見をいただいているので、それについての意見をまとめるというところで、進めさせていただきたい。その後、再編に「是」となれば、再編に向けての課題といったところを、順番に協議を続けていくという形になる。時系列的にもそういう形になるのではないかと考えている。また一定、両校区の話し合いの進み方といったところで、時期的なことも両方の部会に、お伝えする時期が来るのではないかと思う。今、明言はできないがそのような形でお伝えする機会もできればと考えているので、ご理解いただきたい。</p>
委員	<p>一住民として、気になったことがある。弥生と統合することになった時に、保護者が学校へ行く手段というのはどうなるのか。徒歩か自転車か。富士小学校の近くに住宅があり交通の便がすごく気になる。</p>
事務局	<p>校区が広がるので、遠くなる方の交通の便ということであるが、近い方は徒歩で、自転車というお願いすることになると思うが、それぞれ学校には駐車場をある程度確保しているの、一定数停めていただくことができると思っている。統合した場合は、できるだけ自転車等をお願いしたいということと、できるだけ、駐車場を学校の敷地内で確保できるようにし、近隣の方々にご迷惑がかからないように、注意を呼びかけていくことについても、取り組んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>次第3の重点課題についての話し合いだったと思うが、委員の皆さんのご意</p>

	<p>見を聞いて、必要性というのは、概ね理解はされているのではないかと思う。過去の資料を見ても、必要性の理解については、すごく浸透している部分もあると思う。「是」か「非」かを定めるための議題として、重点課題は何かというところを、今、挙げたかったが、そこまで挙がりきらなかったかと思う。次回、重点課題というところで列記していただくと、すごく話しやすいかと感じている。今までのお話で、説明会などで、挙げた重点課題と思われるところを、事務局の方で列記していただき、それについてこの会で話し合っていけたら、「是」か「非」かの判断材料としていけると思う。</p> <p>重点課題の1つとして、富士小校区というのは、おおむね環境はあまり変わらないというところが、正直あると思う。やはり弥生小学校に通っている子たちが、学校が変わるといのは、とても大きな環境の変化があるというところで、資料を見ていても、やはり反対意見が数多くあがっていると思う。それについて、どう理解を得ていくのかという重点課題があるのではないかと、私は考えている。最後にもう1つ、PTAとして来ているので、地域や保護者の意見の集約をしていただきたいという話があったかと思うが、毎月、PTAの会議を開いているが、そういった場で、保護者の意見をすい上げて、ここで発表できるような、そういった形を設けてほしいということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員	<p>そういったことをまたPTAの方で、話しておく。各保護者の意見を集約して、ここで話せるように、次の回では準備しておくので、よろしく願いたい。</p>
事務局	<p>保護者の意見を聞いていただくという意向を今聞かせていただいた。先ほどもあったように、富士と弥生の進度、進むスピードというのを少し調整しながらやっていく必要があると思っている。保護者の方々に意見を聞いていただくタイミング、時期というのも弥生の方とも、どの時期がというようなところを弥生の動きというのも見ながらやっていく必要があると思っている。またその時期的な部分については、こちらからご相談させていただきながらできればと思っている。個別に調整させていただく。</p>
事務局	<p>4. その他</p> <p>次回の部会については、2か月に1回程度の開催ということで、8月ごろに開催することとしたい。(異議なし)</p> <p>5. 閉会</p> <p>～外岡学校教育部参事 閉会挨拶～</p>